

IV. 出雲サンサン保育園

■ 事業計画（令和2年度）

1) 保育理念

一人ひとりの子どもの育ちを大切にし、地域の中にとけ込んだ温かい保育園を目指します

◎木の温もりのある開放的園舎、地域の方からの温かい眼差しに包まれた保育園

《保育方針》

「よく寝、よく食べ、よく遊ぶ」生きる力の基礎を育成します

《保育目標》

(1) 健康な身体と心を持ち、意欲をもって活動できる子

(2) 助け合う仲間関係が持てる子

(3) 豊かな感性を持ち、自分の思いが表現できる子

2) 保育事業

(1) 子ども一人ひとりを尊重した保育に取り組みます

- ・集団における活動・生活や遊びを通しての総合的な保育に努めます。
- ・子どもの発達の過程や状況を把握し、小学校入学以降を見据えた乳幼児期の発達の連続性に着目した保育を大切にします。

(2) 安全で信頼のおける保育に取り組みます

- ・感染症対策や食物アレルギー対策、また園舎内外に於ける事故防止と未然回避対策に向けてマニュアルを基に適切な対応を図ります。
- ・自己評価や保護者、地域、第三者委員の意見等を真摯に受け止め、保育園としての課題と改善点を明確に伝え、共に育む保育園として相互の意識を高めます。
- ・個人に関する情報については、ネット上の漏洩など危機管理を伝え、保護者と共に慎重に取り扱います。

(3) 地域と共に子どもの育ちを支援します

- ・地域の方々との関わりを通して、保育所機能を生かした子育て支援を実践します。
- ・保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実を図ります。
- ・神西小学校校区で保幼小の連携を深めます。

(4) 保護者と共に子どもの育ちを支え共に歩みます

- ・保護者の心に寄り添い、子どもと保護者の安定した関係形成に努めます。
- ・保護者の養育力向上に努め、必要に応じて行政並びに専門機関と連携を密にして対応します。
- ・保育料無償化による保護者説明を丁寧に行い、手続き等の不安がないように努めます。

(5) 職員の資質の向上に努め人間力を高めます

- ・職員一人ひとりが自分の役割を理解し、自己の向上に努めます。
- ・施設内外の研修に参加し、自己研鑽を積み重ね協働性を高めます。
- ・保育士業務手引書を全職員で確認し、意識統一を図ります。
- ・保育システムを活用し、業務の効率化を図ります。
- ・リーダー、チーフとしての自覚を持ち、統率力が發揮できるように努めます。

3) 特別保育事業

(1) 一時預かり事業

- ・家庭内の子育ての孤立化解消等の支援と、保護者の都合により子育てが困難な場合に、一時的に保育支援を行います。

(2) 延長保育促進事業

- ・仕事等により、保育時間内に迎えに来られない場合に必要に応じて保育支援を行います。

4) 保 健

(1) 健康管理に努めます

- ・保護者との情報交換を密にし、毎朝の視診を丁寧に行うと共に、健康状態及び発育・発達状態を把握し、保育に生かします。

(2) 体調不良時、緊急時には適切な対応を行います

- ・体調不良や事故が発生した場合、看護師との連携、指示のもと速やかに対応します。

(3) 感染症の予防と対策に努めます

- ・感染症情報システムの活用により、地域の感染状況を把握し情報を的確に伝え、予防に努めます。発生した場合はマニュアルに基づき対応します。

(4) 健康増進に努めます

- ・保健計画に基づき、健康の保持及び増進に努め、健康状態や疾病等の把握に努めます。
- ・園医により定期的に健康診断を行います。

(園児) 健康診断(2回) 耳鼻科検診(1回) 歯科検診(2回)

(職員) 健康診断

- ・定期検査、安全衛生に努めます。

(園児) ぎょう虫検査(1回) 身体測定(毎月) 検温(乳児のみ毎朝)

突然死症候群予防(乳児のみ睡眠時15分おきチェック)

(職員) 検便(O-157検査含む)

(0歳児担任・給食担当・保健担当／毎月 その他職員1／3ヶ月)

5) 食 育

(1) 食べる意欲を引き出します

- ・楽しく心地よい食体験を積み、「食べたい」気持ちを大切にします。
- ・大皿から取り分ける給食により、自分の食べられる量を調整したり、仲間を思いやる心を大切にします。
- ・料理の匂いや作っている音、姿を見て、空腹を感じ、食事が楽しみに待てるようにします。
- ・食器は温もりの伝わる陶器、口当たりのやさしい竹箸、竹のスプーン(0歳児)を使って食べることを大切にします。

(2) 五感を使った食体験を通して学びます

- ・菜園活動や調理体験等により、食べ物を大切にする気持ちや感謝の心を育てます。
- ・給食には出来るだけ地元の食材を使い、感謝の気持ち、ふるさとを想う気持ちを育てます。
- ・昔ながらの食文化に触れることのできる食事を大切にし、四季の移り変わりを感じられるようにします。
- ・箸や茶碗の持ち方、姿勢など年令にあったマナーを身につけます。
- ・食事の準備、後片付けなども食事の一貫として大切にします。

(3) 味覚を大切にします

- ・化学調味料や加工食品を控え、旬の食材をふんだんに使い、自然の旨みや風味を感じることできる食事を大切にします。
- ・おやつは4回目の食事としてとらえ、添加物ない手作りのものを提供します。

(4) 個々への対応を図ります

- ・離乳食は月齢にとらわれず、発達や機能に合わせ、家庭と連携をとりながらすすめます。
- ・食物アレルギー児への対応は医師の指示のもと、食材・調理方法等に配慮し、家庭と連携をとりながら慎重に進めます。

(5) 衛生面への配慮に努めます

- ・食前食後の手洗いやテーブルの消毒などにより、衛生面に配慮します。

6) 保育環境

(1) 子どもが安心して生活し伸び伸びと遊べる環境に努め、必要な改修・修繕は速やかに行います

- ・安全点検、維持管理と美化に努め、必要な修繕は速やかに行います。
- ・毎朝、大気汚染の状況確認を行い適切な対応に努めます。
- ・省エネとコスト意識を持ち、設備や備品等を適切に取り扱います。

(2) おもてなしの心を大切にします

- ・笑顔と挨拶を忘れず、明るい雰囲気づくりに努めます。

7) 防災・防犯

(1) 毎月の避難訓練は、関係機関との連携のもと実践力を高めます。

(2) 連絡メールシステムを活用し、緊急時の連絡を迅速に行います。

(3) 「地震防災管理計画」「事業継続計画」を基に、各自がとるべき行動を再確認します。

(4) 防災・防犯に関する研修や訓練、設備活用等の対策により安全の確保に努めます。

(5) 様々な災害を想定した訓練を実施し、防災防犯に対する意識を高めます。

■ 事業報告

1 主要事項

年度当初より新型コロナ感染症の影響を受け、日々感染症の発症状況を把握し安全面確保に努めた。同時に保護者への注意喚起を適宜行うと共に、体調不良時の早期対応で緊張感に包まれた年度となつた。

園児受入れは、育休取得後の0歳児を年度後半に集中して受入れ、新年度への運営につなげ、親子のふれ合いを大切にした子育てを重視し、保護者の養育力を高めることができた。同時期に職員の介護による退職と産休が重なり、最低基準上での問題に直面したが、全職種で体制を整え保育の質を維持することができた。

コロナ禍により、外部研修が中止となった為、島根大学原教授を講師に招き園内研修の充実を図った。4か月間連続で各月、一クラスの公開保育を実施し、保育協議を重ねることで保育観の幅を広げ、園児一人ひとりに寄り添った保育の重要性を再認識した。また、リモート会議・研修の開催が主流となり、急遽ネット環境を整え参加した。

コロナ禍での保育維持の為、各保育事業に対しての補助金を活用し、各保育室への空気清浄機設置や給食時の間隔保持用に机や椅子、消毒用玩具分別庫など必要物品を揃え予防に努めた。また、園児受け渡しは玄関対応とし、非接触型体温計で午前・午後の2回職員並びに園児の検温を記録した。同時に、第三者の外部入室の際は記録を徹底し、緊急時への対応マニュアルを作成し、運用した。

日々の手洗い、うがいの効果でインフルエンザの発症もなく、欠席園児はほとんどない推移していたが、1月後半に未満児に胃腸炎が流行り、下痢嘔吐による欠席者数が一時期20名を超えた為、感染症発症時対応マニュアルに基づき保健所へ報告すると共に、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を徹底することで無事に収まった。

1年間、保護者の入室規制を行ったので、園内の様子を伝えるのに苦慮したが、人数規制や園庭で環境を考慮して保育行事を実施した。保育の様子をビデオ撮影したDVDの貸し出や、写真を掲載したクラスだよりで園児の様子を保護者に伝わるよう最善の策を講じ、保護者と共に一人ひとりの成長を感じることができた。

2 評価・反省

1) 保育事業

- ・各クラスの公開保育やエピソード記述を活用し、保育協議や原広治先生に助言を頂くことで保育や支援の気づきを得ることができ、職員同士の共通理解やチーム力向上に繋がった。
- ・異年齢での関わりや集団の保育を大切にしながらも、一人一人の身体と心を大切に考えた保育を行った。その中で園での気になる姿を保護者に伝えながら、同意を得て専門機関に繋げた。
- ・保護者からの意見については、真摯に受け止め、職員間で協議し、早急に改善するなど迅速な対応を行い、信頼のおける保育園づくりに努めた。
- ・子育て支援については、コロナ感染症対策の為、地域の子育て支援事業の子育てサロンへの出向きや施設開放をして在宅親子の受け入れをすることが難しかった。その中で子育て支援のちらしの作成をし、在宅親子に役立てて貰えるよう努めた。
- ・コロナ禍ではあったが、規模の縮小や感染症対策をしながら地域のボランティアの方と米作りや餅つき、とんどさんなど、季節行事を行い良い体験ができた。また、感染症の状況や対策について互いに確認しながら養護学校の生徒と交流することができた。
- ・保幼小の連携について、年度後半の元気チャレンジカードを同期間で行うことが出来なかったので、次年度はしっかりと連携をとるようにしたい。

2) 特別保育事業

- ・一時預かり事業では、利用者のニーズに出来るだけ応えられるよう、同年齢のクラスの状況、職

員体制等確認しながら受け入れを行った。年間を通しての長期利用は、在園児と同様の保育で対応した。また、感染症対策として専用の備品を設置し、予防に努めた。

- ・延長保育については、年間通して利用があり、コロナウイルス感染症予防の対策をとりながら、保護者も子どもたちも安心して過ごすことが出来るよう努めた。

また、感染症対策として、玩具を消毒済、未消毒を分けて消毒する分別庫を設置し、保育業務の軽減を図った。

3) 保 健

- ・年間を通して保育室の衛生管理、園児の健康管理に努めた。新型コロナウイルス感染症の流行と共に、園内の消毒、換気により気を配り、密閉空間・密集場所・密接場面を避けるなど、感染拡大防止対策をとりながら過ごした。
- ・けんこうだよりでは、健康に過ごすための保健に関することや、新型コロナウイルス感染症予防対策として新しい生活の仕方を伝え、情報を家庭と共有しながら意識を高め、感染防止に努めた。
- ・昨年度よりスタートした「ノーメディアデー＝家族団らんの日」の取り組みは、高月齢児の意識が高まり、家族での取り組みに繋がった。また、ほけん便りで各家庭の取り組みの様子を伝えることで定着してきた。引き続きメディアとの関わり方や、家族のふれあいの大切さを伝えていきたい。

4) 食 育

- ・年長児のリクエスト献立は、旬の食材を使った献立を親子で考える取り組みであるが、子ども達も自分の順番が来る誕生月を楽しみに待ち、食に興味関心を持つ機会の一つとなった。
- ・菜園活動・収穫体験・調理活動を通して、食材に興味を持ち、食物への感謝の心を育むことができた。
- ・給食委託業者と献立や食材の確認を行い、安心・安全な給食の提供に努めた。和食中心の中にも子どもが給食やおやつの時間が楽しみになるメニューを考え、取り入れることができた。
- ・子ども達が食べ物により興味を持つよう工夫し、食育クイズなどを取り入れた。

5) 保育環境

- ・コロナ禍による感染対策として、換気、消毒は基より各クラスに空気清浄機を設置し除菌等に努めた。
- ・子どもが安心・安全に過ごせるよう、月1回の安全点検を継続して実施した。破損箇所があった場合には、営繕担当と連携し迅速に対応することができた。
- ・大気汚染状況を毎日、朝と午後に確認し、園外で安全に活動することができた。オキシダントや黄砂による大気汚染の数値が高い予報の日には、細目に数値を確認し、高数値には直ぐに室内での保育に切り替え迅速に対応した。

6) 防災・防犯

- ・毎月火災想定の避難訓練をし、園児・職員共に落ち着いて訓練に参加することができた。様々な状況を想定し、避難放送や119番通報の仕方など繰り返し確認をしながら実施する必要性を感じた。
- ・水害訓練の義務化に伴い、水害想定の訓練を実施した。